

三月四日

早朝四時起床。今日は長駆シリアから東京まで帰る。今十二時フランクフルト空港A 65ゲート待合室。大きな空港の一番外れ。空港も極東である。パレルモから、ローマ経由で辿り着いた。待合室は流石日本人が大半で気持が我ながらゆるむ感あり。

三月五日

成田エクスプレスで新宿に向かっている。飛行機は時刻表通り八時二〇分成田に着いた。又、汚いところへ帰ってきたなとも思う。風景に秩序と品格がない。今日は一度世田谷へ戻り、午後大学へ出直そう。やはり疲れた。

三月七日

昼から大学。昨夜飲んだグラッパが残って体調万全ならず。馬鹿な事したと後悔しても仕方ない。酒ひとつ止められずに偉そうな事言うなと自分で自分を叱る。ズーツとこれの連続だな。

三月九日

昨日は世田谷村登記の件で銀行へ。火災保険その他の書き替え。新築してから解体するというのが法体系ならぬ法言語上理解困難らしい。そりゃそうだろう普通は旧屋を解体してから新築するんだから。午後星の子愛児園現場。最後のツメに入りガタガタが随

所に視えてきた。スタッフの人間力がこういう時には露出する。現場で高橋工業社長と久し振りに再開。夕方世田谷村で高橋と打ち合わせ。宗柳で食事。相変らず飲むと人に説教するクセは抜けていない。これが無けりゃ本当いい奴なんだがなあ。

今日は八時半に星の子現場。内部ドームに手を入れられるところに人力作戦で手を入れる。ゼネコンが動かぬところはこちらでやるのだ。新聞・TVで二〇〇一年度芸術選奨が発表された。

「世田谷村」で文部科学大臣賞を受賞。あらゆる賞は御縁の結果でもあるが、今回の受賞はその意味では殊更なものがある。ようやくにして日記メモをつける体力が戻ってきた。月並みではあるが前に進みたい。

八時過京王線下りに乗って稲田堤へ。土曜日なのに上り線の車輛は満員。コチラはガラガラ、これが気持よい。まさに逆行してゐるのが実感できる。世界もこれ位に単純明快であれば良いのに。でも電車の上り下り程の単純さも危険か。山手線みたいの上り下りもなくグルグル回転しているのはどうなるんだ。アレは二一チエ流の永劫回帰あるいは仏教の輪廻転生の都市的表象なのであるうか。ありとあらゆる表象論の類はかくの如き詭弁の仕掛けの上に成り立つ砂上の楼閣だろう。昼過まで現場。ディテール、仕上げ、色決め指示。

午後おそく安藤向井と千村君宅へ。千村君の書道用デスクの型紙づくり。千村君とおしゃべりする。楽しかった。口で書を描く人と友人になれるなんて本当に運がイイ。夕方田園調布駅前の小料理屋で食事。

三月十日

今日は日曜日だが、午前中スタジオボイス取材。午後は杉並渡

辺邸現場。いよいよ施主と合同のセルフビルドを始める日である。JR 亀戸から東武線で曳船へ。生まれて初めて乗る線路だな。墨田区東向島の取材は対象にひどく失望する。これはダメだ。改装した内部の全てに品格がない。取材後杉並渡辺邸現場へ。渡辺親子がペンキ塗りをしていた。荻窪駅前の屋台でスタジオボイス鈴木木田辺と焼鳥ビールでくつろぐ。こういう日々が送れば良い。何の為に働くのか、キッチンと考えて、毎日夕方には良い酒をほんの一口飲めれば良いのだ。夜疲れてはいたが少し原稿を書く。文字を書くことだけには機械のようになれたらいいな。

三月十一日

朝星の子現場色決め、遅まきながらTOKYOに現場を作るべきことを学んだ。エネルギーのロスが少ない。三〇分で行ける現場は極楽だ。思えば、これまで遠くへ行き過ぎてたな。現場で色決め。ドーム内の光の感じがつかみ切れず、色の濃度を決めるのに苦労した。完成間際の建築はスリルだ。昼過ぎ世田谷村に戻りミーティング。家具の件が中途半端になっているので前に進めた。芸術選奨受賞への祝電その他多くいただく。山陽新聞インタビュ―。夜おそくまで打合わせが続く。この打合わせというのがクセもので、要するに自分一人では出来ない仕事の現実を浮き彫りにする。何でこんな事すぐ出来ないのかと思うのは相変わらずだが、スタッフへのいら立ちは少しづつ少なくなっている。山本夏彦言わく。旅をしてもロバはロバのまま。俺いわく。ロバは叱ってもロバのまま。山頭火風に詠嘆すれば、たたいても たたいても 闇の中。